

ないた赤おに

「青くん…」

「僕に
まがせるんだ！」

「ないた赤おに」

山のがけに一人ですも赤おには、村の人間と仲良くなりたいたと考
えました。ところが人間はこわがって、赤おには近づいてきません。

そこで、赤おには「ココロノ ヤサシイ オニノウチデス。ドナタ
デモ オイデクダサイ。オイシイ オカシガ ゴザイマス。オチ
ヤモ ワカシテ ゴザイマス。」と立て札を立てました。それでも人間は、
赤おにがだましているのだと思い、近づいてきません。赤おには、と
ても悲しみ、その立て札を力まかせにこわしてしまいました。

すると、そこにひょっこりやってきた、友達の青おにが「村に行つて
僕があはれるから、僕をボカボカなくれば、人間は君を『良いおに』だ
と思うだろう」と名案を考えます。そのとおりにすると、人間は赤お
にを信頼し、毎日遊びに来るようになりました。

そして赤おには、とても楽しい日々をすごしました……。が心の
中に、ほつんと取り残されているものに気がきました。それは青おに
のことです。赤おには、青おにの家をたずねましたが、そこには青お
にの姿はなく、手紙が一枚残っていました。赤おにと青おにが会っ
ては人間に、赤おにも『悪いおに』と思われてはいけないので、しば
らくここをはなれるとのこと。

赤おには、だまって手紙を読みました。二度も三度も読みました。
しくしくと、なみだを流して泣きました……。

原作：浜田 廣介 脚色・演出：仲谷 一志
音楽：山浦 弘志 振付：近藤 勇人
歌唱：坂田 かおり 照明：黒江 昭治

はじめに

『子供に純粋な感動を伝えたい』

『大人も楽しめて家に帰って家族の語らいのテーマになり
うる作品を舞台化したい』

『さらに、あらゆる会場で上演が可能であるエンタテインメ
ントでありたい』

そんな作品をと考えた時、私達は「ないた赤おに」のミュ
ージカル化を計画しました。

「日本のアンデルセン」と呼ばれた浜田廣介作品は善意に満
ちたものがあり、このテーマこそ今の子供達に必要である
と考えました。

原作に忠実に物語を進めながら、その言葉のリズムを大切
にしたミュージカルとしての作品をどうぞお楽しみください。



きみがかなしいと ほくもかなしい

きみがうれしいと ほくもうれしい

ともだちだから ともだちだから

ともだちだから…